



# 園だより

文京区立第一幼稚園  
令和7年度5月号

URL <http://www.bunkyo-ky.ed.jp/dai1-kg/>

## 生きる力の根っこを育てよう！

園長 吉羽 優子

園舎をぐるりと囲む樹木の新緑が美しい季節となりました。土の庭は4月のころはチューリップが色とりどりに咲き誇っていましたが、イチヨウの葉が日に日に大きくなっていき、サクランボのかわいらしい実が付くようになりました。登園する子どもたちは、毎朝、緑色のイチゴが色付くの確かめていましたが、いよいよ赤く色付きました。摘んで自然の味わいを楽しめたらと思います。

さて、入園、進級から1か月が経ちました。当初は環境の変化に戸惑う子やお家の方と離れがたくて泣く子もいましたが、園内のあちらこちらで好きな遊びを楽しめるようになってきました。

先日、全体保護者会で「人としての土台、生きる力の根っこを育てましょう」とお話いたしました。子どもたちは、園内で出会う様々な人（担任や主事、預かり担当の先生）と関わったり、様々な環境（植物、小動物、昆虫、砂、水、製作材料など）に興味関心をもって働き掛けたり、幼児なりに様々な物事（自然現象、季節行事、社会のニュースなど）を取り入れて共通の話題にしたりします。日々いろいろなことにわくわくしながら好奇心をもって関わっている子どもたちの姿はまさに生きる力と言えます。先日、Aさんがアヒルのミルクちゃんにプランターからニンジンの葉を摘んで食べさせようとしてしました。ミルクちゃんは一瞬、くちばしでついばみましたが、落としてしまいました。何度か繰り返しやってみても、ついにニンジンの葉には見向きもしなくなりました。そこで隣のプランターに生えていたハコベをあげてみると、ミルクちゃんはとてもよく食べてくれました。「おいしそうに食べてるね。ハコベが好きなんだね」とAさんもうれしそうでした。興味関心をもって自ら関わり、試したりじっくり見たりすることで、相手のことを知ることができるのです。この一連の体験はインターネットで調べるだけでは感じ取れない感動があります。

豊かな体験をたくさん積み重ねていくことで、心が耕されます。もちろん快感情だけではなく、悔しい、悲しいなどの負の感情も体験することでしょう。悔しかった気持ち、悲しい思いに先生や友達が寄り添い、受け止めてもらうことで気持ちを切り替え、前に進むたくましさが増えていくのです。

イチヨウの樹の枝葉が伸びていく様を、子どもの成長に照らし合わせますと、

太くて立派な幹＝子どものたくましさ

枝葉＝興味関心を広げ、新しいことを取り入れ挑戦する心

木の枝に鳥が巣をつくり温かく見守る様子＝人と関わる力

と捉えることができます。そして、イチヨウの木を育てる土台となる土は、教師です。自ら育とうとしている子どもを支えるための栄養を整えていきます。

土の庭には、イチヨウをはじめ、ウメ、モミジ、エンジュ、ビワがあります。これらの樹木が育つように子どもたちも伸びやかに育てたいと思っています。



【園児を見守るイチヨウ】